

令和3年度第6回和田区地域協議会 次 第

日時：令和3年11月17日（水）午後6時30分から
会場：ラーバンセンター 第4研修室

1 開 会

2 議題等の確認

3 議題

(1) 「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について

(2) 自主的審議事項「上越妙高駅周辺の整備、活性化について」

4 事務連絡

5 閉 会

「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について（和田区）

ア 意見交換について

項目	第5回地域協議会で出た意見等	和田区の取組（案）
○地域住民等との意見交換について	<p>【宮崎副会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在検討している自主的審議に関連したものでもよいが、地元町内会や地元団体等との意見交換をしていこうと思う。 ・具体的な内容や日程については、改めて相談したいと思う。手っ取り早い内容としては自主的審議事項の件で、その関係者で意見交換会を行うこととする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的審議の協議等により、必要に応じて地域住民（団体）との意見交換を行う。

イ 会議運営について

項目	第5回地域協議会で出た意見等	和田区の取組（案）
○会議開催日、開催時間、回数、会議の運営方法等について	<p>【宮崎副会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今のところ、定例化した第3水曜日、また、月1回程度で行ってみて、必要に応じて委員の意見を聞きながら開催する。 ・会議における発言機会について「個人の意見が出しにくい」という前期委員の意見が出ているが、今期になって昨年の10月に地域課題を出し合うためにグループワークを1回実施している。そのほか、毎回1つのテーマに対して1人ずつ順番に意見を聞いていく方法もあるかと思う。なるべく全員から意見を出してもらいたいと思っているので、運営方法としては、皆から意見を出してもらえよう、皆さんのご意見を伺いながら努めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日を原則第3水曜日（午後6時30分～）とする。 ・グループワークの実施等、委員が意見を出しやすい会議運営に努める。
○視察や研修の積極的な実施について	<p>【宮崎副会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の釜蓋遺跡の現地視察は研修の1つになると思うので、それを手始めとして、今後、他のところに行くなど検討する。 <p>【佐藤勝雄委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修費の予算は決められているのか。視察や研修の過去の取組を見ると、平成23年11月に金谷区と合同で佐久平まで行っているが、予算的にはどうなるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 【事務局】 バスの場合は市のバスを使用するので、別途、予算はかからない。また、委員の費用弁償についても大丈夫である。 ・「この金額内で」「何キロ以内で」といった制限はないのか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 【事務局】 特にない。新幹線を利用して遠くに行きたいとなると難しいが、当然、目的があって研修を実施することになるため、目的をしっかりと議論した上で決めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的審議事項の協議等により、必要に応じて視察や研修を行う。

「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について（和田区）

ウ 情報発信について

項目	第5回地域協議会で出た意見等	和田区の取組（案）
○発行回数について	<p>【宮崎副会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は町内の役員もやっているが、最近では全戸配布される配布物がほとんどなくなった。以前は全戸配布されるものがよくあったが、今は回覧が多くなった。また、以前は月2回の配布だったが、今は月1回になっており、市の広報に載せられるものはなるべく広報に掲載することになった。回覧だとあまり見ないと思うが、和田区では全戸配布としているため、年4回の発行のままではよいのではないか。必要があれば増やすことでよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発行回数は年4回（全戸配布）の現行どおりとする。
○掲載内容について	<p>【宮崎副会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和田区地域協議会だよりでは、現在検討している自主的審議の進捗状況に関して、市の担当課の説明や委員の質疑等も掲載している。今思いついたが、たまに「地域協議会についてどう思うか」といったことを（委員以外の人から）書いてもらうのもよいかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員以外の人からの意見の掲載について、検討する。

- 1 実施日時 令和3年11月14日(日) 13:00~14:10(晴れ)
- 2 参加者 委員11人(有坂会長、宮崎副会長、植木委員、草間委員、佐藤勝雄委員、佐藤力委員、篠原委員、高橋委員、平原委員、山岸委員、横田委員)
市職員4人(文化行政課 新保課長、羽深主任学芸員
南部まちづくりセンター 堀川センター長、小池係長)

3 視察場所 釜蓋遺跡公園、釜蓋遺跡ガイダンス(大和5-4-7)

4 視察内容

(1) 釜蓋遺跡公園



①スタート地点(平面図①地点)

- ・ここは昔、川が流れていた跡ということで、芝生で表現している。
- ・この環濠集落はベッドタウンのイメージではなく、交易をする場所と言える。外からものが来て、ここで加工して、また外へという流れ。
- ・平成27年当時は発掘調査中で中の様子が断定できず、竪穴建物の復元はしていない。今後の整備計画を立てる際は、復元等を含めて検討していきたいと思っている。
- ・竪穴建物の復元に1棟あたり1千万円弱かかる。かやぶき屋根で維持管理費も相当かかる。復元か違うやり方がよいのか、議論が分かれるところと思われる。



②芝生広場(平面図②地点)

- ・ここで平成28、29年にオクトーバーフェストを行った。地下に影響がなければ、そうした活動を是非やっていただきたい。
- ・限定してドッグランにしてもよいと思う。
- ・(質問: キャンプ場だと問題はありますか) ここは都市公園となり、通常のキャンプ場として使うのは難しいと思う。催し等で短期間の使用は、調整は必要だが可能だと思う。前に青年会議所がキャンプをした。



③東屋(平面図③地点)

- ・この東屋には電気がきているので、催し等をやる場合、電源を使うことも可能。



④北側の柿の木のあたり(平面図④地点)

- ・砂利を敷いた部分が環濠を表現している(右の写真の手前の砂利の部分が環濠)。
- ・この回遊コースは外回り約800m、内回り約650m。本日は後者のコースをまわる。
- ・県道沿いの北側のエリアは、花を植える活動の場所としている。左手側はコスモス、右手側は菜の花としている。
- ・(質問: 柿の木は特別なものか) もともとあったもの。応援団が柿をもいでガイダンス入口で干している。ほしい人にあげている。今はしていないが、応援団が蕎麦を植えて収穫して皆でいただいた。花に限定する必要はないと思う。様々な人が関わりながら使っていければと思う。



⑤釜蓋遺跡公園の中ほど(平面図⑤地点)

- ・(質問: コロナ禍だが、ここを歩く人は何人くらいか) カウントはしていないが、新幹線利用者や地元の人が歩いている。(質問: 新幹線利用者はここを目的に来ているのか) ビジネス目的で来て、待ち時間等で来ていることが多い。
- ・(意見: 西側の景色が良い) 新幹線駅前の一等地でありながら史跡として残していただいている。駅周辺は変わっていくが、ここはこのロケーションで残してもらおう。我々から後の世代にいくにしたがい貴重なものになる。史跡の西側は圃場整備が計画されており、農地として維持管理されていく。



⑥釜蓋遺跡公園の南端（平面図⑥地点）

- ・ブルーシートがかかっている山がある。ブルーシートの下は遺跡の発掘調査の際、竪穴建物などが出てきたときに、そこに埋まっていた土を入れた土嚢袋がある。土器は見てわかるが、小さく細かいものもあり、土ごととっておいて、今後、土をふるいにかけて細かいものを探すために残している。試験的に来年度から施設で勾玉づくりと同じように体験できるように整えていきたい。イメージは佐渡の砂金とり。なお、ものが出てもお持ち帰りにはできない。



(2) 釜蓋遺跡ガイドス

①土器の展示エリア

- ・この施設は吹上、斐太、釜蓋の3つの遺跡を紹介している。ここに展示されているものは吹上、釜蓋のもの。この遺跡の時代は弥生時代の中頃から古墳時代の初め位まで。卑弥呼の時代。この地域を治めていたのは奴奈川のクニの奴奈川姫という説がある。奴奈川姫は色黒で、上越の周りに3つある黒姫山に囲まれたエリアが奴奈川のクニだったと言われている。クニの中心地が釜蓋、吹上、斐太遺跡となる。最初に吹上遺跡ができ、洪水の時代に斐太遺跡に移り、その後、釜蓋遺跡に移った。このエリアに展示している土器はほとんどが吹上遺跡。富山、石川方面からもたらされた土器と長野方面からもたらされた土器があり、上越が北陸と長野のぶつかる地点であることを示している。
- ・(質問：土器の黒い部分はなにか) 炊飯器として使い、煤がついたもの。



②環濠の断面の展示エリア

- ・環濠は大きなお堀。環濠の断面を展示している。現地で断面に接着材をつけてはがして、反転させてここに展示した。白い線は有機物があまり含まれおらず、洪水でできた層と思われる。黒い層は草が生えて腐ってを繰り返してきたもの。環濠は何年もかけて堆積している。くずれやすい土壌で、当時の人は環濠を維持するため何回か掘りなおしている。環濠は敵から備える防御性があると言われているが、発掘



しても武器が見つからない。この環濠は、ここを乾燥させて住みやすくするために掘ったと思われる。この釜蓋遺跡は本州で最北端にある環濠集落。環濠集落はクニの中心にある。

③竪穴建物等に関する展示エリア

- ・建物の9割は竪穴建物。柱は穴を掘ったり、板を敷いたりして建てていた。この特徴として、床面積が100㎡を超える大きな竪穴建物が複数見つかっている。これが何に使われていたのかは、はっきりしない。
- ・この遺跡の特徴として米がたくさん出ている。1,800年前の米だが、今とそんなに変わらない。竪穴建物から見つかったりしている。炊飯器として使用した土器についてオコゲもある。応援団と土器（応援団が作成）で炊いてみたら芯もなく、おいしく炊けた。穴のあいた土器もあり、蒸すこともしていたと思われる。これも自前の土器で試したら赤飯のように炊けた。
- ・応援団作成の石包丁がある。当時の石包丁は稲の穂の先を切るのに使った。大和小学校5年生が学校で米をつくっており、この石包丁を貸し出し、応援団も行って体験してもらっている。



④勾玉等の展示エリア

- ・吹上遺跡から出たものを展示している。ヒスイで勾玉等を作っている。それらを長野や西日本へ出荷していた。ここが上越のものづくりの場だった。遠隔地では、福島、東海地方、瀬戸内海の方面等と交流があったことが出土品からわかる。特に交流が深かったのが北陸と長野だった。この地に1,800年後に上越妙高駅ができたことは、ある意味、偶然ではなく必然だったといえる。
- ・いち推しは0.5mmのシャーペンの芯みたいなもので、勾玉等に穴をあけるための「石の針」である。人間業とは思えない。是非みてほしい。



(3) 施設の維持管理費について

- ・資料を配布。
 - ・令和2年度の維持管理費の予算が14,666千円。
 - ・維持管理費の内訳は、人件費、警備委託、清掃費、消防設備点検、建築物定期点検、自動ドア保守点検、空調機器点検、冬囲い、耕耘委託（北側の花のエリア。年2回）。
 - ・その他に、芝生の芝刈り委託を応援団にお願いしている。また、釜蓋遺跡公園内の草刈り委託がある。
- ※この件は、植木委員より委員皆で共有した方がよい旨の提案が事務局にあり、説明を受けることとしたもの。

(4) パンフレットについて

- ・パンフレットを配布。
- ・第4回地域協議会で説明のあったパンフレットである。市全域を網羅し、時代、カテゴリー別に主だったものを紹介している。ここを出発して上越のいろいろな場所を巡っていただく資料としている。

(5) 吹上・釜蓋遺跡応援団について

- ・資料を配布。
- ・応援団は施設開設前の平成26年からスタートした。
- ・構成メンバーは地元の人が多い。
- ・コロナ禍前の活動内容は次のとおり。
 - *ものづくり（土器、勾玉等）。明日は附属小の子どもが体験に来るが、土器づくりや勾玉づくり等で一緒に活動する。
 - *中郷で土器を焼く（年1～2回）。
 - *学校に出向いてものづくり等。大和小が多い。一緒に米を収穫したり、この施設の入口にチューリップを植えたりしている。
 - *北側のエリアでコスモス、菜の花を育てる。一時は蕎麦も植えて、皆で食べたりした。
 - *干し柿づくり。お客さんでほしい人がいればあげている。
 - *今はやっていないが、バケツ稲をやって上越にきた客がここは越後の米づくりの地と知ってもらうために、収穫して、はさかけもした。平成30年くらいまでしていた。
 - *年2回（春と秋）の遺跡まつり。春の客が多く1,000人以上。秋は700～800人。弓矢的であて、ものづくり（土器、勾玉等）など行う。親子連れが多い。地元だけでなく、市内の小学生もくる。
 - *先進地視察に行き、現地の活動団体と交流。
 - *年会費1,000円だが、コロナ禍で活動を縮小しており、現在は会費をいただいている。
 - *コロナ禍で団員数がちょっと減ってきているので是非加入いただきたい。

(6) 全体を通しての質疑

宮崎副会長より

質問と要望である。本州最北端の環濠集落であることを本日初めて知った。知らない人ばかりだと思うので、キャッチフレーズなどでPRするとよい。竪穴建物は1千万円かかるかもしれないが、包丁を使ったりするなど、実際に体験できると人もくると思うので、その辺も提案してほしい。いち推ししていた石芯は県の文化財だが、全国ではああいうものはあるのか。（新保課長：ある）例えば、関東ではここしかないとか、そういう売りをもっとつくった方がよい。知らない人ばかりなので。（新保課長：ご意見をいただき感謝する）

(7) 釜蓋遺跡の活用について

新保課長より

我々としてはこの施設、公園について、地域の人にどれだけ使ってもらえるか、だと考えている。なので、皆さんが最初の口火になっていただいて、こんなことできないのか、あんなことできないのか、こんなことしたら楽しいんじゃないか、というアイデアがもしあれば、是非こちらの方にご相談いただきたい。こちらも可能な限り、活動を一緒にさせていただきたいと思っている。施設には担当職員が常駐しているので、是非気軽に寄っていただき、お声がけいただきたいと思う。